

## USA All Star Challenge Competition 2018 EAST/WEST

### <演技規定> Senior編成/Open編成 Spiritleading部門

項 目	内 容
演技時間	1分45秒以上 2分30秒 以内
衣 装	自由とするが、年齢に相応で全ての観客に対し適切な衣装とメイクを心がけること
アクセサリ	衣装としてのアクセサリは認める（肌や床を傷つける危険があるものは不可）
履 物	自由とする（靴下やタイツのみは禁止・床を傷つける危険があるものは不可）
手具・大道具	自由とする ※【補足】①参照
構 成	ハーフタイムショーのようにショーアップされたスポーツエンターテインメント性のある内容 ※ダンステクニックを必要とする部門ではありません
セーフティ 全 般	① 安全性を考慮していない危険な行為、フロアを傷つける恐れのある行為は禁止 ② 手具・衣装・その他アクセサリ・装飾品は演技中に落下しないように配慮しなければならない ③ 怪我等の事情で、硬く曲がらない・表面に凹凸があるギブス・コルセットなどをする際は適切な素材でカバーすること ④ 手に全体重をあずける動作は、何も持っていない状態で実施しなければならない（例外：前転・後転）
個人で 実施するもの  タンブリング & エアリアル ストリートスキル	<b>&lt;ダンススキルとしてのタンブリングは実施できるが、必須ではない。実施する場合は、以下①～④を遵守すること。&gt;</b> ① 腰が頭を超える回転を含む技 a. 空中に浮かない技は実施可 b. 空中に浮か技で手の支持がある場合は連続して2回まで実施可 c. 空中に浮か技で手の支持がないものは以下の全てを満たす場合は実施可 i. ひねりは最大1回転(360度)まで ii. 手の支持がない、空中で腰が頭を超える回転技との連続実施は不可 iii. 手の支持がある、腰が頭を超える回転技との連続は2回まで実施可 ② 腰が頭を超える体勢での回転を含むタンブリングをしている同士が、お互いの上・下を、通過・超えることは禁止 ③ 腰以下の高さからに限り、肩、背中、座位で演技フロアへ直接ドロップすることができる（膝、腿、うつ伏せ、頭では不可） ④ 脚が体の前方にあるジャンプから、脚を後方に動かして腕立て伏せ姿勢でフロアに着地することは不可
グループ/ペアで 実施するもの  ダンスリフト パートナーリング	<b>&lt;ダンスリフト・パートナーリングは実施できるが、必須ではない。実施する場合は、以下①～⑥を遵守すること。&gt;</b> ① 肩の高さより下でリフト・パートナーリングを行っている場合は、支えているダンサーは演技フロアに直接触れ続けなくてもよい ② 頭の高さより上でリフト・パートナーリングを行う場合、最低一人は常に動作を行うダンサーとお互いが触れている状態にすること 例外：動作を行うダンサーが一人の支えるダンサーのみに支持されている場合、以下の条件を満たしていれば、いかなる高さから離れてもよい a. 離れた後に逆さまになってはいけない b. 離れた後は最低1名以上に支えられて演技フロアへ着地すること c. 離れた後にうつ伏せでキャッチされてはならない d. 支えるダンサーは、リフト・パートナーリングを実施している間は手具を持ってはならない ③ リフト・パートナーリングでの、腰が頭を超える体勢での回転は、以下の場合に実施可 a. 動作を行うダンサーが演技フロアに戻るまで、もしくは頭を上にした直立姿勢に戻るまでの間、 動作を行うダンサーと少なくとも1名の支持するダンサーとのコンタクトが保たれること ④ 倒立姿勢は、以下の場合に実施可 a. 動作を行うダンサーが演技フロアに戻るまで、もしくは頭を上にした直立姿勢に戻るまでの間、 動作を行うダンサーと支持するダンサーのコンタクトが保たれること b. 倒立するダンサーの肩が、直立姿勢での肩の高さを超えるときは、支えるダンサーとは別に、少なくとも1名が追加スポッターとして加わること （支持するダンサーが3名いる場合は追加は不要） <b>演技フロアへのデismount/着地について</b> ⑤ 支えているダンサーから、ジャンプ/リープ/ステップ/ブッシュオフなどで離れる動作は以下全てを満たす場合に実施可 a. 離れた後の最高点において、少なくとも動作を行うダンサーの一部が頭の高さ以下であること b. 離れた後、うつ伏せ/逆さま姿勢を通過してはならない ⑥ トスする動作は以下の場合に実施可 a. トスの最高点において、少なくともトスされるダンサーの一部が頭の高さ以下であること b. 仰向け/逆さま姿勢の状態からトスされてはいけない c. トスされた後に逆さま姿勢を通過してはならない

【 補 足 】 ①手具・大道具の設置 演技中に使用する全ての手具・大道具は、選手自身でフロア内に運び入れ・設置・撤去できるものでなければならない